

事務事業 No./名称	■サービス部門 生涯-06 □支援部門		文学館管理運営事業					
主管課	生涯学習課	関連課						
分野名	文化							
目標 (目標値)	文学館の観覧者の増加を目指す 年間100,000人							
人口等のデータ	データ区分	22年度	21年度	20年度	備考 ・各年4月1日 (住民基本台帳)			
	人口	177,161人	176,669人	176,484人				
	世帯数	78,812世帯	78,131世帯	77,430世帯				
	事業の対象者数	97,060人	104,004人	105,429人				
運営資源状況	決算値(千円)	74,146	91,425	75,830				
	(国・県)		11,096					
	(負担金等)							
	(一般財源)	74,146	80,329	75,830				
	人員配置数	0.4	0.2	0.2				
	人件費(千円)	3,500	1,781	1,796				
	協働のパートナー							
事務事業運営経費	総事業費(千円)	77,646	93,206	77,626				
	市民1人当りの経費(円)	438	528	440				
	対象者1人当りの経費(円)	800	896	736				
ベンチマーク (県内外自治体や民間団体との比較値)	団体名	県立近代文学館	大佛次郎記念館	世田谷文学館	鎌倉文学館			
		神奈川県横浜市	神奈川県横浜市	東京都世田谷区	神奈川県鎌倉市			
	延床面積	7,285㎡	768㎡	4,593㎡	1,412㎡			
	22年度観覧者数	32,362人	16,825人	41,357人	97,060人			
指標	評価	年度	21年度	22年度	23年度	24年度	最終年度(年度)	
	観覧者数(人)	△	目標値	100,000人	100,000人	100,000人	100,000人	100,000人
			実績値	104,004人	97,060人			

中事業に含まれる小事業の評価(⇒個別事業の概要は裏面)

評価の視点	①効率性	事業費や人件費に削減余地はないか。	②妥当性	事業の目的と政策・施策体系の目標とが整合しているか。法的な根拠や公的関与の妥当性はあるか。		
	③有効性	事業の成果が得られているか。事業を休止・廃止した場合影響があるか。	④公平性	受益機会が偏っていないか。受益者負担は公平・公正か。		
小事業名	H22決算値	評価	適切=○、要改善=△(評価の視点を参照)	⇒ 方向性 A:充実・拡大 B:現状継続 C:改善・見直し D:統合縮小 E:廃止・休止		
文学館管理事業	74,146千円	①効率性 ○	②妥当性 ○	③有効性 ○	④公平性 ○	⇒ □A ■B □C □D □E
	事業の概要	指定管理者制度により、文学館の効率的な管理運営を行った。指定管理者との役割分担に応じた施設の維持管理を行った。				
		①効率性	②妥当性	③有効性	④公平性	⇒ □A □B □C □D □E
	事業の概要					
		①効率性	②妥当性	③有効性	④公平性	⇒ □A □B □C □D □E
	事業の概要					
		①効率性	②妥当性	③有効性	④公平性	⇒ □A □B □C □D □E
	事業の概要					
		①効率性	②妥当性	③有効性	④公平性	⇒ □A □B □C □D □E
	事業の概要					

中事業の評価結果

事業診断(課長評価)				
H22年度の課題	施設・設備老朽化による修繕箇所増加。指定管理者に対するモニタリングの実施。			
課題解決のための取組	バルコニー手摺の修繕等を行うなど、建物の維持管理を行った。館の訪問、連絡会議等により業務の実施状況を確認し、指定管理が適切に行われているかどうかチェックした。			
未解決の課題	施設・設備の大規模改修。指定管理者に対するモニタリング。			
今後の方針	計画的かつ効率的な修繕を行う。平成23年度からの2回目の指定管理期間にはモニタリングを実施していく。また、今後も指定管理者との連絡会議などにより、施設の管理運営が適切に行われているか確認していく。			
今後の方向性	A:充実・拡大 B:現状継続 C:改善・見直し D:統合縮小 E:廃止・休止	⇒ B	※ □事業完了	課長名 高宮 淳

